

令和4年度

自己評価報告書

学校法人晃陽学園

晃陽看護栄養専門学校

1. 開催概要

新型コロナウイルス感染の拡大・防止等の観点から書面決議にて実施

2. 学校関係者評価委員 ※敬称略

氏 名	選任区分
清水 雄二	業界関係者
植木 淳	業界関係者
黒沢 豊	地元有識者
清水 俊明	地元有識者
野村 剛秀	卒業生

I. 目標

【学校の教育目標】

- 1、専門職業人としての倫理観を持ち、主体的学習と自己の成長を促すための自発的態度を培う。
- 2、社会の変革に対応できる視野を持ち、人々の多様な価値観・ニーズを理解する能力を身につける。
- 3、各分野に関する専門的知識と科学的根拠に基づく判断能力・問題解決能力を身につけ、的確な実践力を養う。

【各学科の重点目標】

助産	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識の修得を強化し、的確な助産診断ができるようにする。 ・助産技術の習熟を図り、適切な助産ケアが実践できるようにする。 ・助産チームの一員として役割と責任が果たせるようコミュニケーション技術を高める。 ・教育の質を確保し、学生の教育に対する満足を保証する。 ・国家試験 100%合格、学生の定員確保を目指す。
看護	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の学生の学ぶ姿勢を大切にし、主体的学習習慣を育てる。 ・基本的な知識を持ち、看護を実践できる能力を育てる。 ・地域の暮らしや生活を理解し、社会変化に適応可能な看護援助に対する視野を育てる。 ・看護倫理に基づいた看護学生としての意識を育てる。 ・看護師国家試験合格率 100%を目指す。
救急救命	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的な思考に基づく教育を目指し、高度な医療知識と適切な観察、判断、処置能力を養い、命を繋ぐ使命感と責任ある人材育成を図る。 <p>心構え ①自然な挨拶、礼儀の出来る道德観のある学生 ②清潔な身だしなみの維持 ③コミュニケーション能力の向上 ④規律厳正 ⑤ボランティア精神の向上 ⑥健康管理</p>
歯科衛生士	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の定員確保 ・国家試験 100%合格 ・学生の質を確保 ・学生満足度の保証 ・チーム医療の一員として、コミュニケーション能力を身につける
管理栄養士	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い教養と人間尊重の心を持って、人々に寄り添い健康と栄養に関する専門性の高い技術で社会に貢献できる管理栄養士を目指す。
栄養士	<ul style="list-style-type: none"> ・人の身体と心を健康にしていく。 ・実践力のある栄養士を育成する。
調理師 グランシェフ	<ul style="list-style-type: none"> ・調理師としての知識と技術はもちろんのこと、社会人として恥じぬような立ち居振る舞いができる学生を育てる。
パティシエ・スイーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・パンや菓子づくりを通して基本を大事にする精神や思いやりを育み、社会に通じる戦力になる人を育てる。 ・国家資格取得に向けて受験生として挑み、日々の勉学に励む人を育てる。

II. 令和4年度 教職員自己評価集計結果

1. 教育理念・目的・人材育成

A: 適切 B: ほぼ適切 C: やや不適切 D: 不適切

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	A	学校の教育目的を基に各学科(専門分野)の教育目標を定めている。 さらに各学科において重点目標を定めている。	
② 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが 学生、関係業界、保護者等に周知がなされているか	A	入学前イベント・入学オリエンテーション・学校生活を通して、学生(保護者)に説明 している。関係業界においても実習受入れ企業等を中心に周知している。	
③ 学校における職業教育その他の教育指導の特色は明確か	A	他学科の学生・教員との合同演習など特色を織り込んでいる。学内の各学科と連携でき るよう、カリキュラムに反映している。	
④ 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いている か	A	学校として、専門職に対する社会のニーズや要請をしっかりと把握し、将来構想を練って いる。	
⑤ 各学科の教育目標、人材育成像は学科等に対応する業界 のニーズに向けて方向づけられているか	A	各学科の教育目標等において方向付けを行っている。そして社会のニーズに応えられる ように当校の教育目標を達した人材を輩出していく。	

2. 学校運営

A: 適切 B: ほぼ適切 C: やや不適切 D: 不適切

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 目的等に沿った運営方針が策定されているか	A	年度初めの辞令式において校長から提示され、それに応じて学科ごとの方針を策定して いる。	
② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	A	理事会・評議員会等で明確な事業計画が決議され、遂行されている。	
③ 運営組織や意思決定機能は明確化されていて、有効に機 能しているか	A	職務規程、決裁規程により実施。毎年見直しを行っている。	
④ 人事・給与に関する規定等は整備されているか	A	就業規則により整備されている。	
⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備さ れているか	A	決裁規程、マニュアルにより管理し実施している。適宜見直しを行っている。	

⑥ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	B	コンプライアンスについて相談を受けられるような体制に整備していく。業界や地域社会に対する体制の整備については検討中である。	体制の整備について引き続き検討しながら整備していく。
⑦ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	A	ホームページでの自己評価、学校関係者評価の公開を含め、パンフレット等を含め適切に情報公開を行っている。	
⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	B	教職員の事務業務効率化のため、令和5年度中の新しいシステム導入に向けた取り組みを具体的に進めている。	情報システム化等においては、引き続き検討しながら導入していく。

3. 教育活動

A: 適切 B: ほぼ適切 C: やや不適切 D: 不適切

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	A	学科の特色を生かした教育課程・実施方針を策定している。	
② 教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	A	学則または学科ごとの細則等により明確にされている。	
③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	A	学科ごとに体系的に編成している。	
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	A	他学科の学生・教員との合同演習など特色を織り込んでいる。学内の各学科と教育連携し、カリキュラムに反映している。	
⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等の連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	B	カリキュラムの作成・見直しは随時実施しているが、全学科において必ずしも連携が十分ではない。	今後、より連携を強めていきたい。
⑥ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	B	学校関係者評価委員会を組織している。 (コロナ禍の影響もあり、縮小での実施)	実施体制についてより整備していくことが必要。
⑦ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	A	カリキュラムにより位置づけられている。	
⑧ 授業評価の実施・評価体制があるか	B	学生への授業アンケートを行っているが、学科によっては活用が不十分な状況もある。	全学科において、十分な活用方法を教職員で模索していく。
⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	A	各学科においてシラバスを作成しており、記載されている学則・学科ごとの細則を見られるよう明確化している。	

⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	B	カリキュラムにおける体系的な位置づけはあるが、指導体制について検討の余地がある。令和5年度は国家試験合格率向上に向け、グループ校と緊密に情報の共有を行っていく。	指導体制の見直し、強化を引き続き図る。
⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	B	各学科教員の確保に取り組んでいる。	引き続き、資質のある教員の確保に努める。
⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員の確保に努めているか	B	各学科教員の確保に取り組んでいる。	引き続き、資質のある教員の確保に努める。
⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みが行われているか	B	看護学科、助産学科では資格取得のための研修制度があり、救急救命学科は国家試験問題作成協力により質の向上に努めている。調理・パティシエは姉妹校での研修、管理栄養・栄養士学科も研修会の参加を行っている。	引き続き、教員の積極的な研修・学会等参加の推進に努める。

4. 学生指導（私立専門学校等評価研究機構に記載有）

A：適切 B：ほぼ適切 C：やや不適切 D：不適切

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 基本的な生活習慣の確立のための取組みが行われているか	B	担任制による毎朝の出席確認、遅刻・早退者への指導、学内での挨拶指導、身だしなみのチェック等、医療・衛生分野にふさわしい取組みを行っている。また、家庭との連携にも努めている。	より良い指導体制を築けるよう学科間の教職員における連携も深めていきたい。
② 学生・保護者からの相談体制が整備されているか	A	担任が相談に応じ、希望者には面談を行っている。また、必要時は各学科の責任者との相談体制も設けている。	
③ 通学・就職指導にかかる支援体制は組まれているか	A	遠方からの入学者には、女子学生会館を完備し、アパート、駐車場の斡旋（不動産会社の紹介）を行っている。就職については求人票の掲示、面談、関連業界を招いての説明会等を行っている。	
④ 学生の安全管理のための取組み等（災害救済保険、スクールカウンセラー、発達障がいのある学生等への支援など）が行われているか	A	学校保険の加入、アレルギー体質者への給食指導、持病を持つ学生への注視、保護者との密な連絡体制の構築を心がけている。	

5. 学修成果

A：適切 B：ほぼ適切 C：やや不適切 D：不適切

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 就職率の向上が図られているか	A	各学科において専門分野への就職率が向上している。	

② 資格取得率の向上が図られているか	B	各学科において資格取得率の向上を図り、取り組んでいる。今年度の国家試験の結果等を踏まえた上でさらなる対策が必要である。	教員の質の向上、国家試験対策教員の配置等の組織の見直しを図る。
③ 退学率の低減が図られているか	B	各学科において退学率の低減を図り、取り組むことができている。	意欲が低下している学生へのサポート・相談体制を検討する。
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	A	広報担当者、教員が就職先を訪問し、職務に対する意識や活動内容の把握に取り組んでいる。また、在校生については面談等で把握している。	
⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	B	施設訪問で状況を把握し、教育活動に役立てている。	卒業生を招いての講演会等、在校生の意欲を高めるような企画も検討していきたい。

6. 学生支援

A: 適切 B: ほぼ適切 C: やや不適切 D: 不適切

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	A	担任制をとり個別面談の実施、求人票の掲示、業界関係者を招いての就職説明会を行っている。また、学科により卒業生の就職試験報告書を自由に閲覧できるような体制をとるなどの工夫をしている。	
② 学生相談に関する体制は整備されているか	A	担任による個別面談の実施（生活、授業、校外実習など）	休学、退学者への対応において、より充実した相談体制の検討が必要。
③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	A	日本学生支援機構の相談、都道府県その他奨学金制度や企業との提携による学費借入れ制度や民間の教育ローンに関する案内（掲示・配布）、また個別相談等を行い、学費延納にも配慮している。	
④ 学生の生活環境への支援は行われているか	A	女子学生会館（2棟）の設置、入学前のアパート・駐車場の斡旋（不動産会社の紹介）、本校の連携企業へのアルバイトの斡旋等を行っている。	
⑤ 学生の健康管理を担う組織体制があるか	B	年度当初の健康診断の実施および看護教員常駐の保健室を設置している。また、季節、状況に応じた予防接種を実施している。	
⑥ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	B	コロナ禍の影響により、イベントが中止・縮小で参加できなかったものもあるが、栄養・調理・製菓等のコンテスト、近隣市町村イベントへの参加（衛生分野）、市の依頼による救護活動の協力（医療分野）等積極的に参加している。	今後も積極的に参加を促していきたい。
⑦ 卒業生への支援体制は整備されているか	A	再就職のための情報提供、相談に応じている。学科により国家試験再受験者の学内セミナーへの参加、受験当日の引率、指導を行っている。	

⑧ 関連分野における業界との連携による卒業後の再教育プログラム等が行われているか	C	定期的な教員の訪問等により連携は行っているが、再教育プログラムの構築までは至っていない。	必要に応じて検討していく。
⑨ 保護者と適切に連携しているか	A	特に出席日数不足、成績不振の学生の保護者に対しては密に連絡を取り、面談等を行って対策を講じている。定期試験の成績報告は郵送により保護者あてに通知している。	
⑩ 社会人入学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	A	入学時社会人優待制度（検定料の免除、試験の優待など）を設け、志願しやすい体制をとっている。入学後は教育訓練給付金制度の認定を受けた学科の学生に対し、給付金受領の説明、事務手続きを行っている。	
⑪ 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	A	高校からの依頼による講師派遣、インターンシップの受け入れを積極的に行っている。	

7. 教育環境

A: 適切 B: ほぼ適切 C: やや不適切 D: 不適切

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	B	やや古い建物（校舎）の設備において不備が生じているが、順次修繕の対応を行っている。	修繕、補強、補充を随時行う。
② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	B	学外の実習施設（全学科）については、教員による施設訪問、打ち合わせ等を密に行い、施設の確保に努力し規定の時間数の確保を維持している。	
③ 防災に対する体制は整備されているか	B	校舎については定期的な点検を行っている。避難訓練についてもコロナ禍の影響により縮小での実施ではあるが、工夫して行い意識付けをしている。	

8. 学生の受入れ募集

A: 適切 B: ほぼ適切 C: やや不適切 D: 不適切

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みが行われているか	A	ホームページでの発信、広報担当者による学校訪問や進路ガイダンス参加での案内、パンフレット等の配布により、オープンキャンパスの実施等情報提供に取り組んでいる。	
① 学生募集活動は適正に行われているか	A	広報部の責任者のもと、広報会議における確認、学校訪問記録等のチェックを行っている。	

③ 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報が正確に伝えられているか	A	各学科の資格取得率、就職状況についてはパンフレット等で正確に伝えている。	
④ 学生納付金は妥当なものとなっているか	A	妥当な金額で設定されている。	

9. 財務

A: 適切 B: ほぼ適切 C: やや不適切 D: 不適切

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	B	平成 31 年開設の学科が全て完成年度を迎え、全体の学生数において徐々に安定してきている。	学生募集の強化に努める。
② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	B	入学者数の不足している学科においては、収入減が見込まれる。	学生募集の強化に努める。
③ 財務について会計監査が適正に行われているか	A	理事会・評議員会において会計監査を適切に行っている。	
④ 財務情報公開の体制準備はできているか	A	決算書・予算書は事務局に保管、希望により閲覧できる状態となっている。	

10. 法令等の遵守

A: 適切 B: ほぼ適切 C: やや不適切 D: 不適切

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	B	学科により教員数の増員を必要としている状況はあるが、その他基準を満たしており、定期的な監査でも高評価を得ている。	状況に応じた改善を迅速に行う。
② 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	A	パソコンの個人情報はセキュリティのかかったサーバで保管、管理している。書類は施錠の上、キャビネットに保管している。	
③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	B	自己評価については令和元年度より実施している。実施方法や問題改善のための取り組みについては順次取り組んでいる。	自己評価委員会の充実を図り、問題点の解決に向けての話し合いを強化していく。
④ 自己評価結果を公開しているか	A	令和元年度より本校ホームページにて公開している。	

11. 社会貢献・地域貢献

A: 適切 B: ほぼ適切 C: やや不適切 D: 不適切

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	A	小・中学校の家庭教育学級からの依頼による料理教室（コロナ禍のため近年は実施縮小）、高校の体験実習、見学会等を積極的に受け入れている。また、令和2年8月には古河市と災害時の妊産婦避難所設置に係る協定を締結している。	
② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	A	古河市と連携をし、市主催行事への参加を積極的に行っている。（令和4年度実績：スポーツフェスティバルや大相撲古河場所の看護・救護協力等）	
③ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	A	小・中学校の家庭教育学級からの依頼による料理教室、教育訓練の受け入れ等、積極的に行っている。	

Ⅲ. 昨年度（令和3年度）学校関係者評価委員からの意見、質疑に対する到達状況

評価項目	意見・質疑	学校の応答
3. 学校活動	(意見) 情報システム化は不可欠、人材確保を急いだほうが良いのでは。	積極的に情報システム化への取り組みを進めており、令和5年度中には業務の省力化、ペーパーレスに向けシステム導入を予定しております。業務のアウトソーシング化等の検討と同時に教職員においても情報に関する知識・技術の修得に取り組んでいます。
4. 教育活動	(質疑) 業界との協力がなかなか得られない点は、どのような分野ですか。	医療分野を中心に、コロナ禍の状況で実習受け入れに関する制限が続いておりましたが、収束および5類移行に伴い実習等の受入れについても徐々に緩和されてきております。
5. 学修成果	(質疑) コロナ禍による退学者が多いなか、何人くらいの退学者がいますか。	引き続き、当校ではコロナ禍による退学者はおりません。コロナ禍を含め経済事情が変化してしまう家庭においては、引き続き学生支援機構等の奨学金に関する情報を提供しております。
10. 法令等の遵守	(意見) 書類も重要度にランク分けし、保管セキュリティ強化が必要ではないでしょうか。	引き続き、書類保管においては各部署にて所属長のもと厳重に保管しております。また、学校全体としてもペーパーレス化を徐々に取り入れておりますので、そのような観点から情報セキュリティへの意識も高めていきたいと考えております。

IV. 学校関係者評価委員からの意見、質疑・学校の応答

評価項目	意見・質疑	学校の応答
1, 教育理念、目的、人材育成	(意見) 学校の方向付け、重点目標を定めての対応がされています。継続をお願いいたします。	
2, 学校運営	(意見) コンプライアンス体制・情報システム化等、検討されつつ適正に整備されることを期待します。	
3, 教育活動	(意見) 学生の資格取得が必要かと思います。先生方の努力が伺えます。引き続きお願いします。	
4, 学生指導	(意見) 相談体制の充実・努力が伺えます。継続を。	
5, 学修成果	(意見) 生徒の心が折れないよう指導、継続して対応して下さい。	
	(質疑) 各学科の退学率はどの程度なのだろうか。他の学生にも影響が出るのだろうか。	令和4年度の学科在籍数に対する退学率は、管理栄養士学科(2.2%)、栄養士学科(1.5%)、調理師学科(11.1%)、助産学科(20%)、看護学科(3.6%)、救急救命学科(18.1%)、歯科衛生士学科(1.4%)となっております。在籍人数の少ない学科については年度でバラつきが見られるケースもあります。退学においては個人的な理由がほとんどですが、他の学生に影響が出ないよう各教職員がサポートをしております。
6, 学生支援	(意見) 課外活動の継続。また保護者と連携しての対策は学生の頑張りにつながると思うので続けて下さい。	
7, 教育環境	(意見) 避難訓練は、必要です。工夫して続けて下さい。	
8, 学生の受入れ募集	(意見) 各学科、資格取得率、就職状況の広報伝達は必要です。発信を続けて下さい。	広報物やホームページ・SNS等を通じて今後も発信を続けてまいります。
9, 財務について	(意見) 安定した学校運営のために生徒募集に努めて下さい。	
10, 法令等の遵守	(意見) 適正に対応されているかと思います。	
11, 社会貢献・地域	(意見) 災害時の対応(妊産婦避難所設置)、市行事への協力、引き続き貢献して下さい。感謝しております。	昨年度も古河市との包括連携協定に基づき、大相撲古河場所や古河スポーツフェスタの運営補助ボランティア等に参加させて頂きました。今後も継続して積極的な参加を続けていきたいと考えております。